

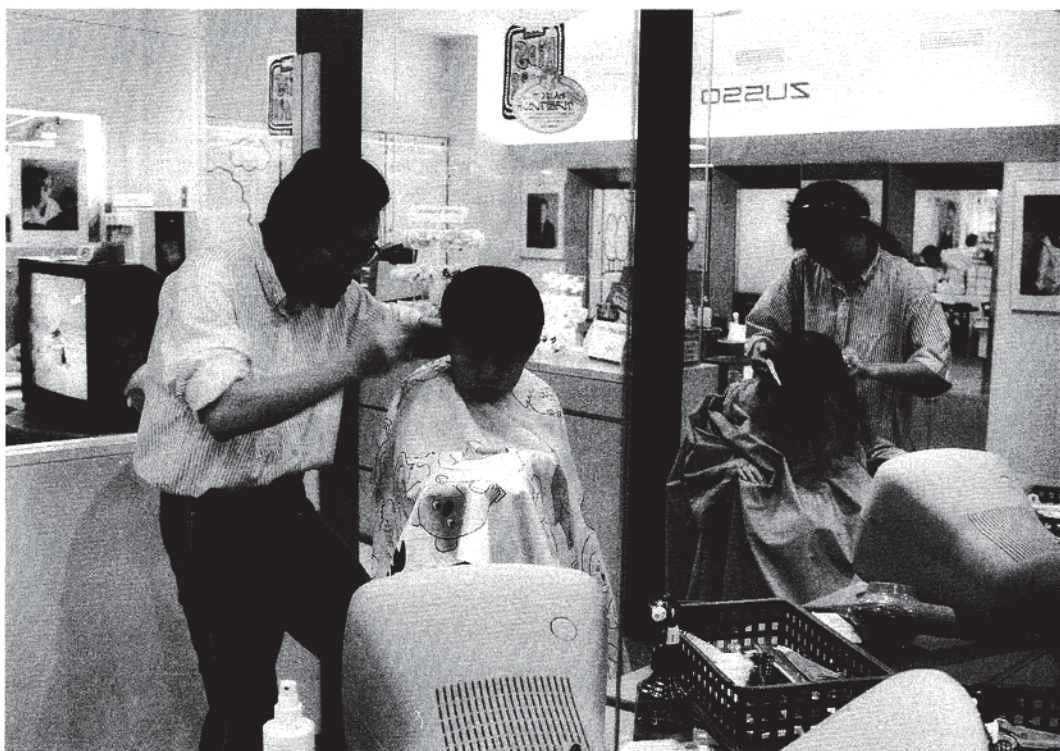
第2部

父親たちの抱く父親像

第1部では、中学生からみた父親のイメージについて記述を行ったが、この部では父親に対して行った調査の結果から、現代の父親の考えについて考察していきたいと思う。



第Ⅰ章 父親たちの生活



1. 父親の仕事

官公庁などで既に週5日制が導入されたことなどから、以前と比べ仕事のみ熱中する父親は減ってきたといわれる。しかし、現状はどうなのであろうか。まずはその仕事について具体的にみてみることにしよう。

まず仕事の通勤時間についてであるが、自宅から「30分以内」とする父親は全体の55.5%と半数を占めている。また、一番回答として多かったのは「31分～1時間」の25.5%であることから、大多数の通勤時間は1時間以内であるようである。表2-1は勤務時間を表したものであるが、最も多いのが「10時間1分～11時間」で24.8%、次に多いのは「9時間1分～10時間」の24.4%であり、大づか

みでいえば、通勤時間を含めて「10～12時間」を仕事に費やしているとみることができよう。

このように、父親は1日の約半分を仕事に費やしていることになるが、では父親は自分の仕事をどのように捉えているのであろうか。表2-2は自分の仕事についての評価を表したものであるが、「自分の仕事はやりがいがある」と「とても+わりと感じている」父親は79.7%と高い割合を示しており、「仕事は自分の大きな生きがいである」とする父親も63.9%となっている。したがって、仕事が父親の生活の中で大きな意味を持っていることは間違いないことであろう。しかし自分の仕

事に対して、「今まで精一杯仕事をしてきた」と評価はしているものの（91.6%）、「この先、仕事において、もっと成功できると思っている」のは46.3%と過半数に満たず、あまり将来に希望をもてないようである。また、仕事についての条件では「忙しすぎる」（74.3%）、「収入に満足していない」（73.3%）と、両者ともに4人に3人が感じている。このようにしてみると、現代の父親は仕事についてやりがいを感じ、生きがいとなっはいるものの、仕事の条件について不満を抱いている様子が感じとられる。

では、このように仕事が忙しすぎると考え

ている父親は、家にいるとき、どのような時間の使い方をしているのだろうか。図2-1は家にいるとき「いつも+わりとしている」ことを図にしたものであるが、新聞や本を読むことや、テレビを見ることといった体を使わない項目が上位にあげられている。逆に、父親が子どもの勉強を見てやったり一緒に遊ぶことはあまりせず、また家で自分の仕事をするのもあまりしていないとしている。父親は仕事が忙しいため、家ではあまり体を使うことなく、のんびりとした時間を過ごしているであろう。

(表2-1) 勤務時間

(%)

～9時間	16.4
9時間1分～10時間	24.4
10時間1分～11時間	24.8
11時間1分～12時間	16.4
12時間1分～	18.0

(表2-2) 自分の仕事について

(%)

	いつもそう 感じている	ときどき そう感じる	あまりそう 感じたこと はない	まったく そう感じた ことはない
1. 今の仕事は忙しすぎる	25.4	48.9	22.5	3.2

(%)

	とても満足 している	かなり満足 している	あまり満足 していない	まったく満足 していない
2. 今の給料(収入)には満足している	3.6	23.1	57.7	15.6

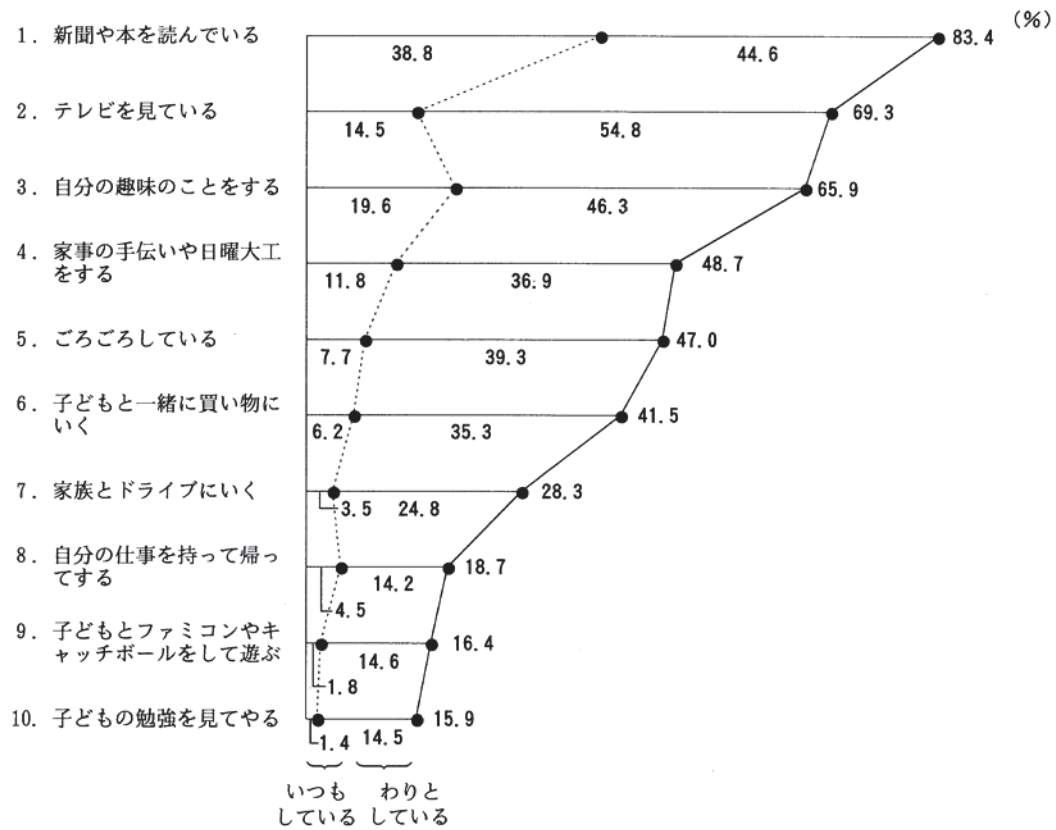
(%)

	とてもそう である	わりとそう である	あまりそう でない	まったく そうでない
3. 自分の仕事はやりがいがある	24.0	55.7	17.9	2.4
4. 自分は今まで、精一杯仕事をしてきたと思う	39.9	51.7	7.5	0.9
5. 仕事は自分の大きな生きがいである	21.1	42.8	33.4	2.7
6. この先、仕事において、もっと成功できると思う	9.9	36.4	49.8	3.9
7. どんな仕事でもいいから、家にいるよりも外で働いていた	13.8	34.7	42.4	9.1

(%)

	絶対 続けたい	できれば 続けたい	あまり 続けたくない	まったく 続けたくない
8. 今の仕事を定年まで(体が動かなくなるまで)続けたい	20.0	58.3	19.2	2.5

(図2-1) 家にいるとき何をしているか

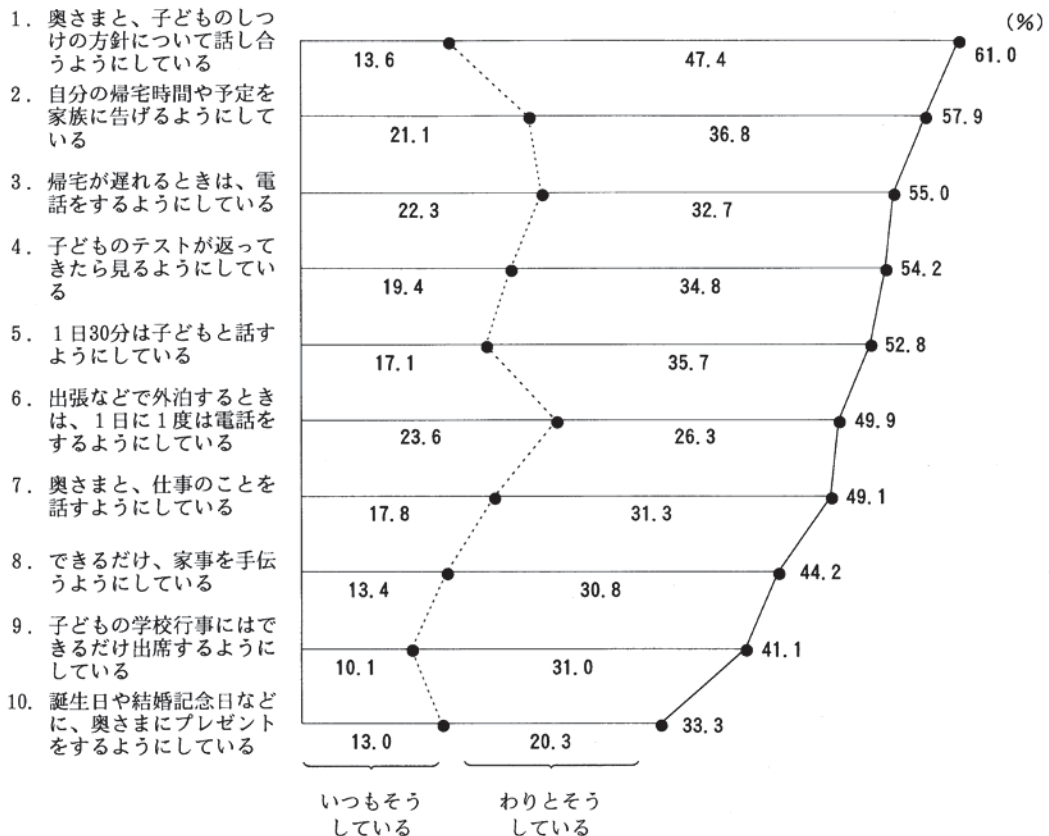


2. 父親の家庭での生活

では、このように仕事に追われる中で、父親はどの程度家族のことを気にかけているのだろうか。家族をどの程度気にかけているのかをたずねた質問について「いつも+わりとそうしている」と答えたものから大づかみに傾向性をたどってみる。図2-2についてであるが、「自分の予定を家族に告げている」「自分の帰宅が遅くなるときは電話をする」など5割以上の父親があてはまるとしており、以前にCMではやった“カエルコール”では

ないが、父親は仕事に忙しい中、直接多くの時間を割いてはいないものの、しかし決して家族に対して無関心ではなく、できる範囲で家族とコミュニケーションをとろうと努力しているようである。また子どもに対しても、子どものしつけの方針は妻と話し合うようにしており、テストが返ってきたら目を通し、1日30分は子どもと話すようにしているなど、子どもの教育に対しても参加しようとする姿勢がみられる。

(図2-2) 家族への配慮



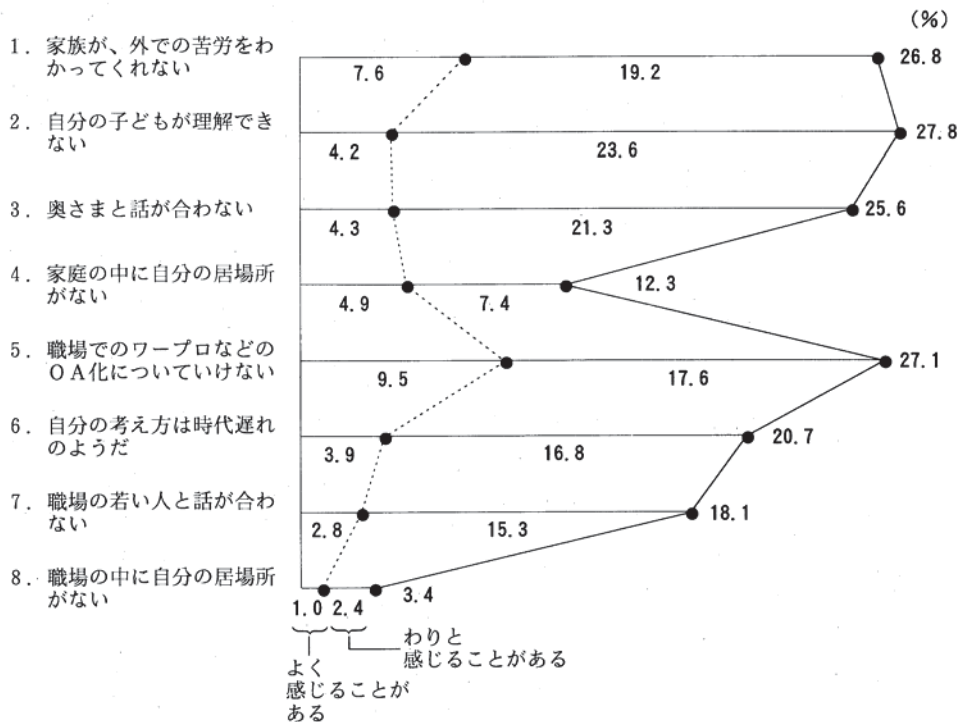
3. 父親の抱いている悩み

次に、図2-3から仕事・家庭の悩みについて試みることにする。まず、仕事についての悩みでは「ワープロなどのOA化についていけない」「自分の考え方は時代遅れのような」と感じている父親はいるものの、家庭に関する悩みと比べると割合が低くなっている。また「職場の中に自分の居場所がない」と感じている者は全体の3.4%であることから考えれば、ここで示されたような項目の限りでは、父親は職場に関してあまり悩みを抱

いていないといえることができるようである。

では、家庭についてはどのような悩みを抱いているのだろうか。家庭に関する悩みとして、「自分の子どもが理解できない」「家族が外での苦勞をわかってくれない」と「よく+わりと感じることもある」父親は、3人に1人となっており、職場についての悩みよりは悩む割合が高くなっている。しかしながら、「家庭の中に自分の居場所がない」という深刻な悩みを感じている父親は全体の12.3%である

(図2-3) 家庭や職場についての悩み

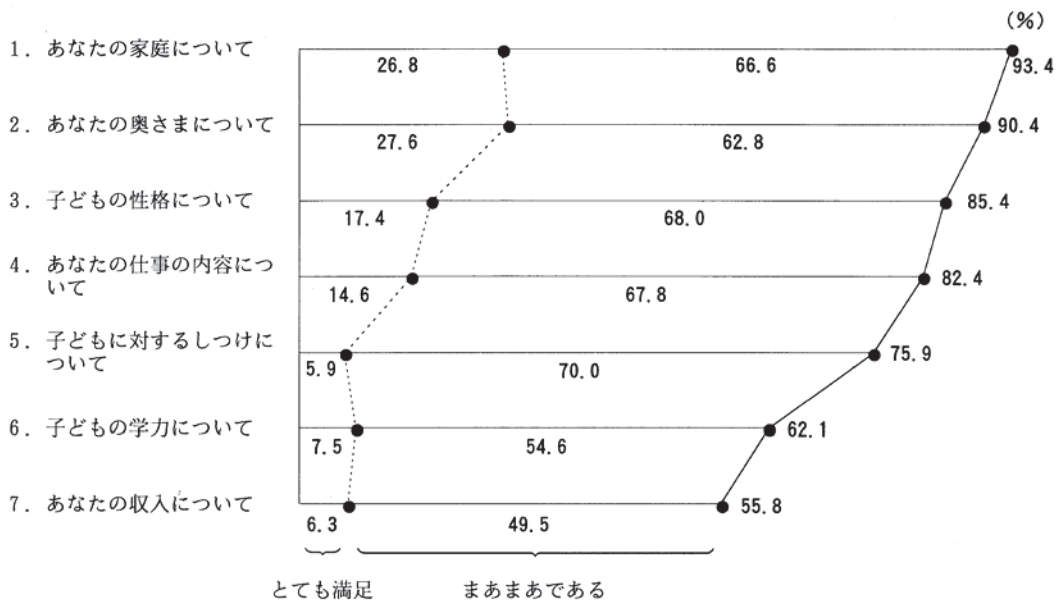


ことから、家庭に対しても比較的満足しているということができるとはならないだろうか。

これを補足する数字として、自分の人生を振り返っての満足度を示した図2-4をあげておくことにしよう。この図に示された7項目の中で、最も不満の多いのは「自分の収入」についてであり、次に不満が高いものは「子どもの学力」、そして「しつけ」といった

子どもに対する項目があげられている。しかしながら、これ以外の4項目については「あまり満足していない+かなり不満である」とする割合はいずれも2割に満たず、家庭や妻に対する満足度はともに90%を超えていることから、上述したように現代の父親の満足度は全般的に高いとみなすことができるようである。

(図2-4) 全体としての満足



第Ⅱ章 家庭での父親の役割



1. 父親の家庭での位置

前章では、父親の日常生活について仕事と家庭の両面から、その満足度を中心にみていった。父親は仕事に生きがいを感じ、日々忙しくしながらも、家庭についてもできるだけ時間を割いている。また、仕事や家族に対する満足度も決して低いものではなかった。しかしながらこうしてみると、現代の父親は家庭の中でどのような位置を占めているのかという疑問がわいてくる。父親の権威は失墜したといわれることがあるが、それは果たして実際どの程度進んでいるのだろうか。この章では家庭における父親の位置についてみていくことにしよう。

図2-5は、家庭での役割分担について表

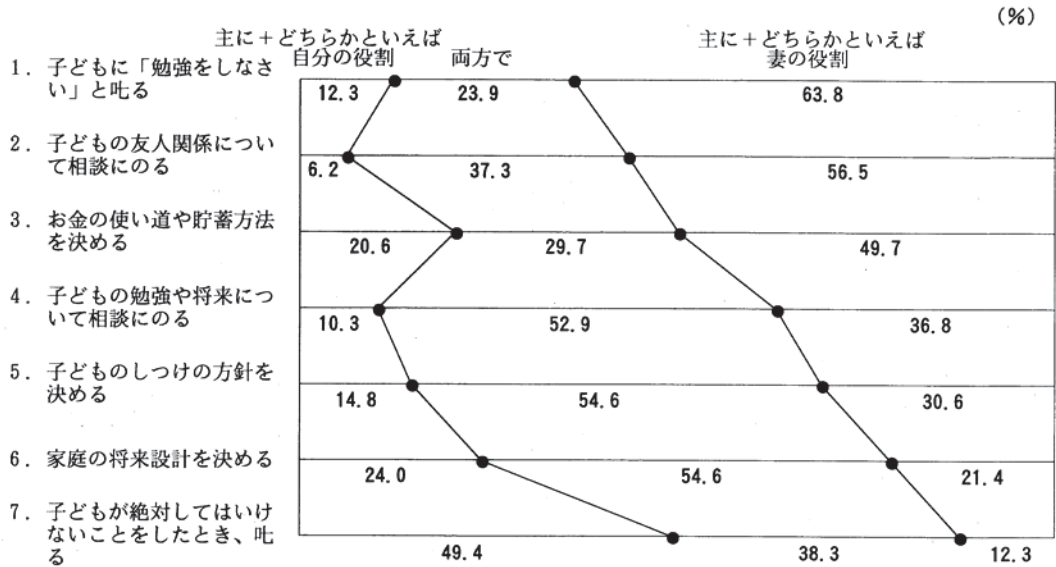
したものである。家庭の将来設計や子どもの将来について相談にのること、子どものしつけの方針を決める、など家族の長期の見通しについては、父親と母親の両方で決めているようである。一方、お金の使い道や貯蓄方法を決めるのは、主に妻の役目であり、また子どもに対して友人関係について相談にのったり「勉強をなさい」と叱る、というような子どもに身近なことについても妻の役割だと考えている。それに対し父親の役割だと考えている項目は、子どもが絶対してはいけないことをしたとき叱る、である。したがって、実際の家庭の運営については妻が主な役割を担っているのかもしれないが、家庭について

の計画は話し合っで決め、また何かあった場合には父親が出てくるなど、要所要所で父親が力を発揮しているとみなすことができるようである。

この家族における父親の権威が未だ失墜し

てはないということを確認するものとして、表2-3をあげることができる。「いつもそう」と答えた項目を高い項目から順に並べると、高いものを買うときには奥さまから相談され、ご飯をよそうときは一番最初であ

(図2-5) 家庭での役割分担



り、正月などは自分の実家に家族で帰るといったように、ごく日常的な家族との関わりにおいても、家族から尊重されている様子がかがわれる。こうしてみると、以前に比べれば父親の力は低下したのかもしれないが、

やはり未だ父親の権威は健在であると考えることができそうである。

(表 2 - 3) 父親は家庭でどのくらい尊重されているか

(%)

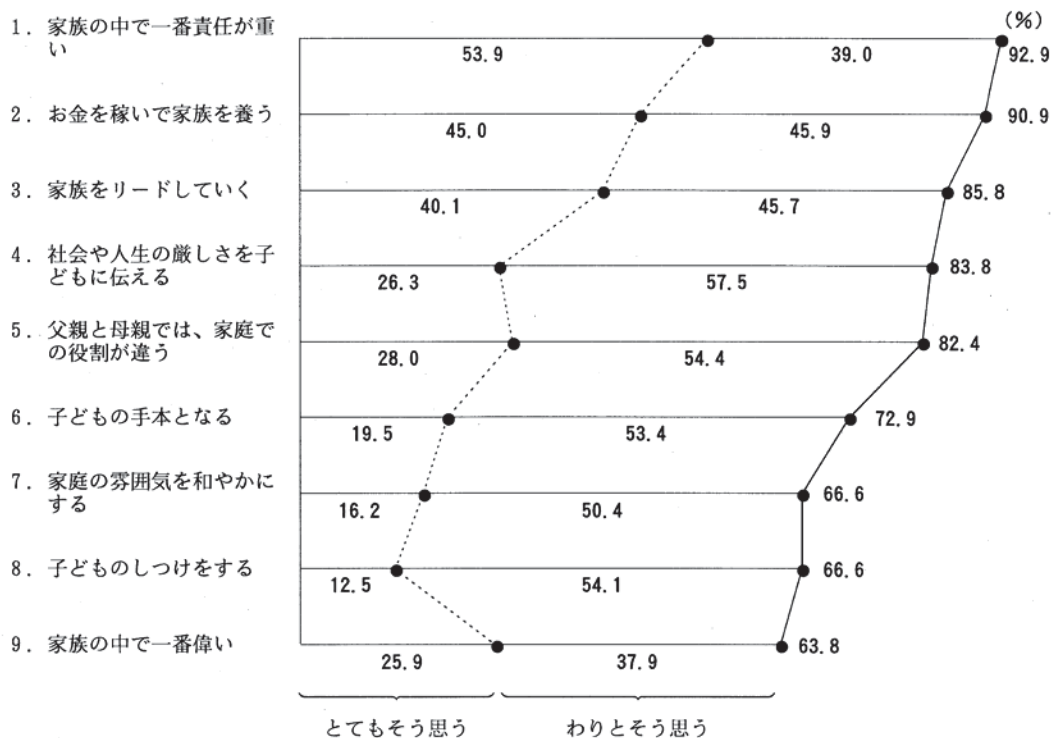
	いつもそう	わりとそう	あまり そうでない	まったく そうでない
1. 高いものを買うとき、奥さまはあなたに相談する	45.7	34.3	13.0	7.0
2. ご飯をよそうとき、あなたのお茶碗からよそう	42.9	28.5	19.4	9.2
3. お盆やお正月には、あなたの実家に家族で帰る	40.8	21.4	21.7	16.1
4. 毎年、お年玉はあなたが渡している	39.1	19.3	23.7	17.9
5. 家族で旅行するとき、あなたが予約を入れる	29.8	24.4	25.5	20.3
6. あなたの趣味に関しての出費や外出に文句は言わない	28.4	39.9	23.1	8.6
7. あなたの体調が悪いとき、奥さまは気づいてくれる	26.4	50.2	19.6	3.8
8. 何も言わなくてもお茶がでてくる	24.3	35.7	27.7	12.3
9. 家族内で意見が分かれたときは、あなたが決める	24.1	53.1	19.3	3.5
10. テレビのチャンネルはあなたが決める	19.9	32.6	36.9	10.6
11. 家族で外食するとき、あなたがお金を支払う	18.7	20.4	32.2	28.7

2. 家庭での役割

では、一般に父親とはどのような役割を果たすものだと考えられているのだろうか。図2-6はそれを表したものであるが、現代の父親が感じている父親の役割は、お金を稼いで家族を養い、家族の中で一番責任が重く、家族をリードしていくといったように、昔ながらの役割についてそうだと考えている割合が高くなっている。また比較的家庭の中を和やかにしたり、子どものしつけをするといった、従来母親の役割だとみなされていたこと

についてはあまり父親の役割だとはみなしておらず、また家族の中で一番偉いとも考えていないようである。しかしながら、これら比較的あてはまらないとした3項目においてさえ「とても+わりとそう思う」割合は60%を超えていることから、父親と母親とでは家庭の役割は異なると考えている割合が高い(82.4%)としてはいるものの、実際には明確な役割分担がなされているとはいえないと考えるべきではないだろうか。

(図2-6) 「父親」の役割



第Ⅲ章 父親の自己イメージ



1. 父親としての自己評価

表2-4は、同年代の父親の中での自己評価として「とても+わりとそう」と回答した割合を、属性別も含めまとめたものである。まず、今の父親の“父親”としての自己評価における傾向性として、「必要なときに厳しく叱れる」「社会常識がある」「日曜大工や修理能力がある」など、従来の父親・男性役割に近い役割をあてはまるとみなしている傾向がみられる。また逆に、子どもの教育や家事能力について、そうであるとはみなしていないことから、従来の役割観に基づいた自己評価を行っているともみることができようである。

この項目について、さらに属性別にもてみることにしよう。これは同年代の父親と比較

しての自己評価であるが、年齢別にみた場合「必要なときに厳しく叱れる」「日曜大工や修理能力はあるほうだ」「メカに強いほうだ」「子どもと遊ぶのが好きなほうだ」「家事能力があるほうだ」の5項目について、いずれも年齢が低いほどあてはまると評価している。

次に学歴についてであるが、まず大学院卒についてはその該当者数が少ないため表から除外してある。また、短大・専門学校卒については、その校種や入学年齢等の多様さから結果の意味を解釈しにくくなっている。そのためそれは今後の検討課題とし、今回のレポートの中での解釈は省いている。では学歴による傾向性の差をみていくことにしよう。

(表2-4) 同年代の父親の中での自己評価

	全体	年 齢			学 歴			年 収 (同年代の男性に比べて)						
		41~45歳		46~50歳	51歳~	中卒	高卒	短大・専門 学校卒	大卒	かなり高い	やや高い	平均くらい	やや低い	かなり低い
		~40歳	41~45歳	46~50歳	51歳~	中卒	高卒	短大・専門 学校卒	大卒	かなり高い	やや高い	平均くらい	やや低い	かなり低い
1. 必要などに厳しく叱れるほうだ	62.7	66.1 >	63.8 >	60.1 >	56.3	54.0 <	62.9 <	74.3 >	65.9	74.7 >	65.1 >	61.0	59.1	60.3
2. 社会常識があるほうだ	50.2	44.4	50.2	54.2	52.5	34.3 <	48.6 <	52.2 <	67.1	62.1	63.0 >	48.9 >	40.2 >	32.3
3. 日曜大工や修理能力があるほうだ	49.2	52.5 >	49.3	48.1 >	43.3	55.9 >	49.0 <	54.0 >	43.8	55.1	52.9	47.2	47.1	55.9
4. 自由に使える時間が多いほうだ	40.9	38.5	42.0	42.3	37.9	39.2	42.4	43.3	39.3	50.0	45.9	38.6	40.5	35.3
5. メカに強いほうだ	35.2	42.3 >	35.0 >	32.0 >	25.5	27.5 <	37.4	39.8	37.6	37.9	37.8	35.1	33.3	33.9
6. 子どもと遊ぶのが好きなほうだ	33.1	37.6 >	32.3	32.4 >	26.2	27.6 <	32.4 <	46.9 >	34.6	29.8	40.9	29.2	33.2	38.2
7. 男女平等の意識があるほうだ	32.9	31.5	33.5	34.5	27.0	26.6 <	29.9 <	41.6	41.9	32.2	34.6	33.3	32.7	30.9
8. 家事能力があるほうだ	31.1	39.3 >	30.2	29.1 >	18.6	30.7	32.3	38.9	26.6	35.6	31.2	28.7	33.7	38.2
9. 幅広い趣味があるほうだ	29.6	33.8	28.5	31.4	21.6	21.9 <	29.2 <	35.4	35.8	34.5	36.0 >	26.7	28.7	26.5
10. 子どもの世話をするほうだ	25.7	26.7	26.2	25.8	17.5	25.0	26.0	31.8	23.2	29.9	29.2	23.3	25.0	29.4
11. 読書量が多いほうだ	22.0	18.6	22.6	24.7	17.6	9.9 <	17.3 <	26.8 <	40.8	26.4	29.3	19.1	15.7	26.5
12. 教育やしつけについての知識があるほうだ	20.8	17.2	20.1	24.2	19.6	10.5 <	17.7 <	23.0 <	34.9	24.1	29.1	18.7	16.1	20.6

「とてもそう」+「わりとそう」の割合

中卒—高卒—大卒と学歴が上がるにつれ、そうであると回答する割合が高まっていった項目は「社会常識があるほうだ」「男女平等の意識があるほうだ」「幅広い趣味があるほうだ」「読書量が多いほうだ」「教育やしつけについての知識があるほうだ」である。また逆に学歴が上がるにつれ、そうであるという割合が下がっていった項目は「日曜大工や修理能力があるほうだ」という項目であり、このようにしてみると、学歴の高い者は父親として知識についての自己評価が高く、逆にそうでない者は実際的な能力に対して自己評価が高いという傾向がみられる。

最後に年収についてであるが、「必要なときに厳しく叱れるほうだ」については年収が「平均くらい」～「かなり高い」と上がるにつれ、そうであるとする回答が増加傾向を示

している。「必要なときに厳しく叱れる」ということは、父親の年収により生ずる家庭内または職業面での権威に対応した傾向性と考えられる。また、「社会常識があるほうだ」については年収が「かなり低い」～「やや高い」にかけて増加傾向を示している。「メカに強いほうだ」「男女平等の意識があるほうだ」「読書量が多いほうだ」の3項目については、年収による違いがほとんどみられないのも特徴である。前述したように、「男女平等の意識があるほうだ」「読書量が多いほうだ」については学歴による相関がみられたにも関わらず、年収による差がみられないことから、この2つの項目に関してはある程度学歴により説明づけられるようである。

2. 父親の類型化

では実際に、現代の父親は自分が父親としてどのような父親であると考えているのだろうか。ここでは、父親のイメージを全体として把握するために調査票の問い⑩⑪～⑮を因子分析にかけることで分析を行っている。因子分析とは回答の傾向性を推定するため、複数の項目から特定のパターンを析出するためしばしば用いられる手法であり、単一の項目から傾向性を導き出すよりも傾向性の差が明らかになりやすいという利点があるからである。

表2-5は因子分析により析出された軸を表にしたものであり、3つの傾向性が明らかになった。第1軸は「頼りになる」「尊敬できる」「威厳がある」といった昔の権威ある父親像と、「教育熱心」「相談にのれる」といった昔にはない父親像とが合わさったものである。この因子について「〔権威のある〕父」と名づけた。

第2軸は「友だちのようだ」「おしゃれ

「毎日が楽しそう」などから友だちのような性格を表す項目に関わりが深い。したがって、これを「友だち型」とした。

第3軸は「口うるさい」「自分勝手」「頑固」など、古い否定的な父親をイメージさせるような項目に特徴づけられる。ここでは「〔身勝手な〕父」とする。

では各軸ごとに、その属性を簡単にみてみることにしよう。またこれ以降変則的ではあるが、図2-7～図2-12においてマイナスの値が右になっている。これは調査票のスケール(尺度)から、該当する図においてマイナスの値が高いものほどその傾向性を強く示していることから、見やすさを考慮にいれたためである。

また以下の図の解釈として、マイナスの値の数字が大きい(図において右にあればあるほど)場合は、その軸の示す傾向性をより強くもっていると解釈できる。例えば図2-7から、「〔権威のある〕父」因子と年齢の関係

についてみると、年齢が51歳以上は-0.11、逆に31~40歳は0.12となっている。この場合、51歳以上の人が最も「〔権威のある〕父」因子の傾向性を強くもつ人が多く、逆に31~40歳の父親の場合、最も「〔権威のある〕父」因子の傾向性をもたない父親、すなわち「権威のない父」である傾向性をもつ人が多いといえよう。

では、各軸ごとの属性にみられる差についてみていくことにしよう。図2-7は「〔権威のある〕父」について表したものである。この因子にみられる特徴は、年収・学歴に強

くみられる。年収に関しては、同年代の男性よりも高いと思っている父親のほうが、この傾向性が強くみられる。また、学歴についても学歴が高い父親のほうが、この傾向性が強くなっている。したがって年収・学歴ほどではないにせよ、年齢についても年齢が上の父親のほうが、この傾向性が強くなっている。また妻の就労についても専業主婦に強くみられることから、父親の家庭における権威が強い家庭ではないかと推測される。

図2-8は「友だち型」について表したものである。「〔権威のある〕父」と同じように

(表2-5) 父親のタイプ (バリマックス回転による析出)

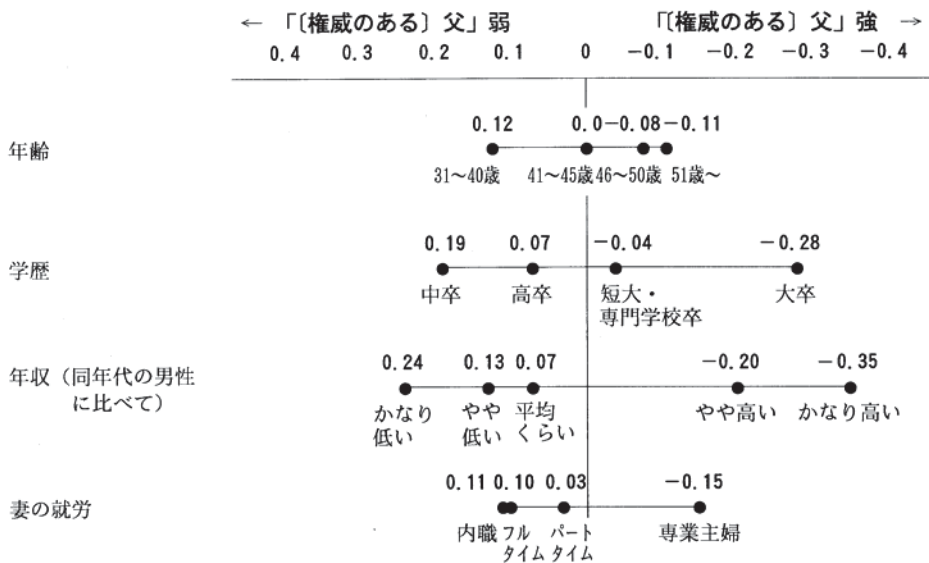
	「〔権威のある〕父」	「友だち型」	「〔身勝手な〕父」
1. 頼りになる	0.77985	0.24288	-0.11256
2. 尊敬できる	0.75177	0.28638	-0.07277
3. 威厳がある	0.68517	0.13992	0.22688
4. 物知りだ	0.57919	0.26548	0.10312
5. 教育熱心	0.57217	-0.06342	0.20908
6. 相談にのれる	0.54781	0.46487	0.22688
7. 友だちのようだ	-0.01199	0.75665	-0.10269
8. おしゃれ	0.05488	0.62749	0.26077
9. 毎日が楽しそう	0.32554	0.58160	0.00033
10. 物わかりがいい	0.36210	0.51393	-0.33046
11. 口うるさい	0.18085	-0.08320	0.71776
12. 自分勝手	-0.17563	0.06522	0.71276
13. 頑固	0.30899	0.00909	0.68321

年収に関して、同年代の男性よりも高いと思っている父親のほうが、この傾向性が高くなっている。しかしながら、年齢に関しては「〔権威のある〕父」とは逆に、年齢の若い父親にこの傾向が強くみられる。したがって年齢が若いため学歴による年収の差が開いていない段階のためからか、学歴に関しては特定の相関はみられないのも特徴であるといえよう。また「〔権威のある〕父」とは違い、妻がフルタイムで働いている者にこの傾向性が強くみられることから、この因子の強い父親の場合、父親としてだけでなく夫として

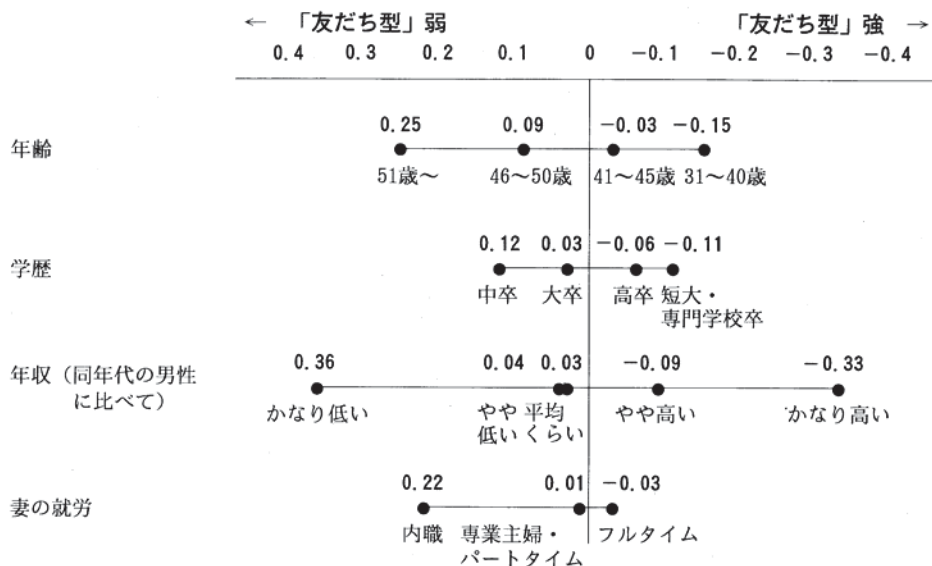
も、友だちのような関係を築いていると考えられることができるようである。

図2-9は「〔身勝手な〕父」についてであるが、この因子にみられる属性の傾向は他の因子とは異なり、属性のいずれについても大きな相関はみられないことが特徴だといえる。このようにしてみると、この因子に関しては、ここであげた項目以外の属性により特徴づけられるものかもしれない。

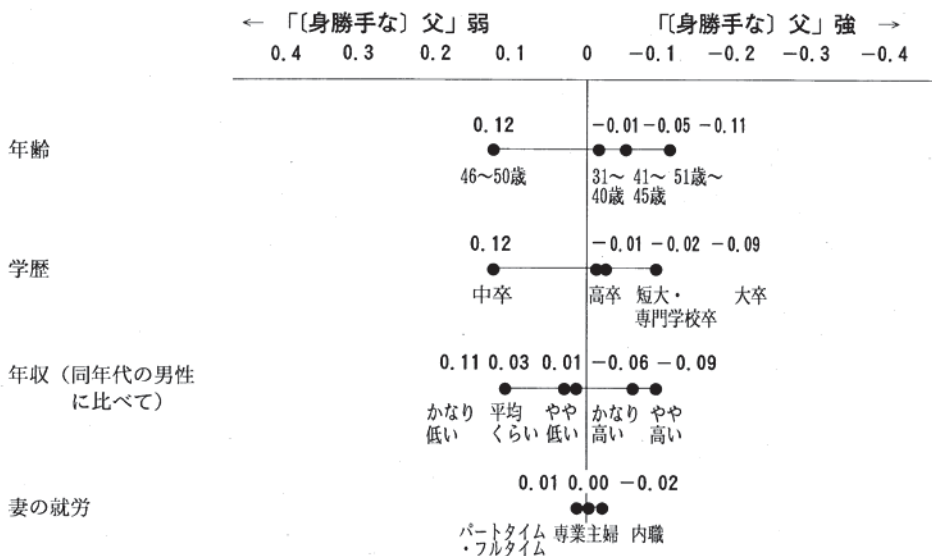
(図2-7) 「〔権威のある〕父」因子と属性



(図2-8) 「友だち型」因子と属性



(図2-9) 「[身勝手な]父」因子と属性



3. 父親の役割モデル

では、現代の父親のモデルとは何であろうか。家庭を築いたり父親になったりした場合、無意識的であるかもしれないが、自分が生まれ育った家庭・両親をモデルとすることが多いといわれる。しかし、果たして実際どの程度の相関がみられるものであろうか。

図2-10は「〔権威のある〕父」について中学生の頃自分の父親に対して抱いていたイメージと、自分の父親としてのイメージの相関を表したものである。「頼りになる」「尊敬できる」「威厳がある」というように、自己イメージと同じ項目について、自分の父親もそうであったと考えている割合が強いことから、自分の父親のイメージと相関が強いことがわかる。また、「友だちのようだ」「おしゃれ」「毎日が楽しそう」といった「友だち型」のイメージについても、「友だち型」の父親ほどではないにせよ、「そうである」とする割合が高くなっている。「頑固」というイメージについては「〔身勝手な〕父」の父親ほどではないにせよ、ある程度の相関がみられるものの、「自分勝手」「口うるさい」には相関がみられない。このように、「頑固」という昔の父親に対する代名詞のような項目に関しては相関がみられ、「友だち型」の父親とも同じような相関がみられる。また属性

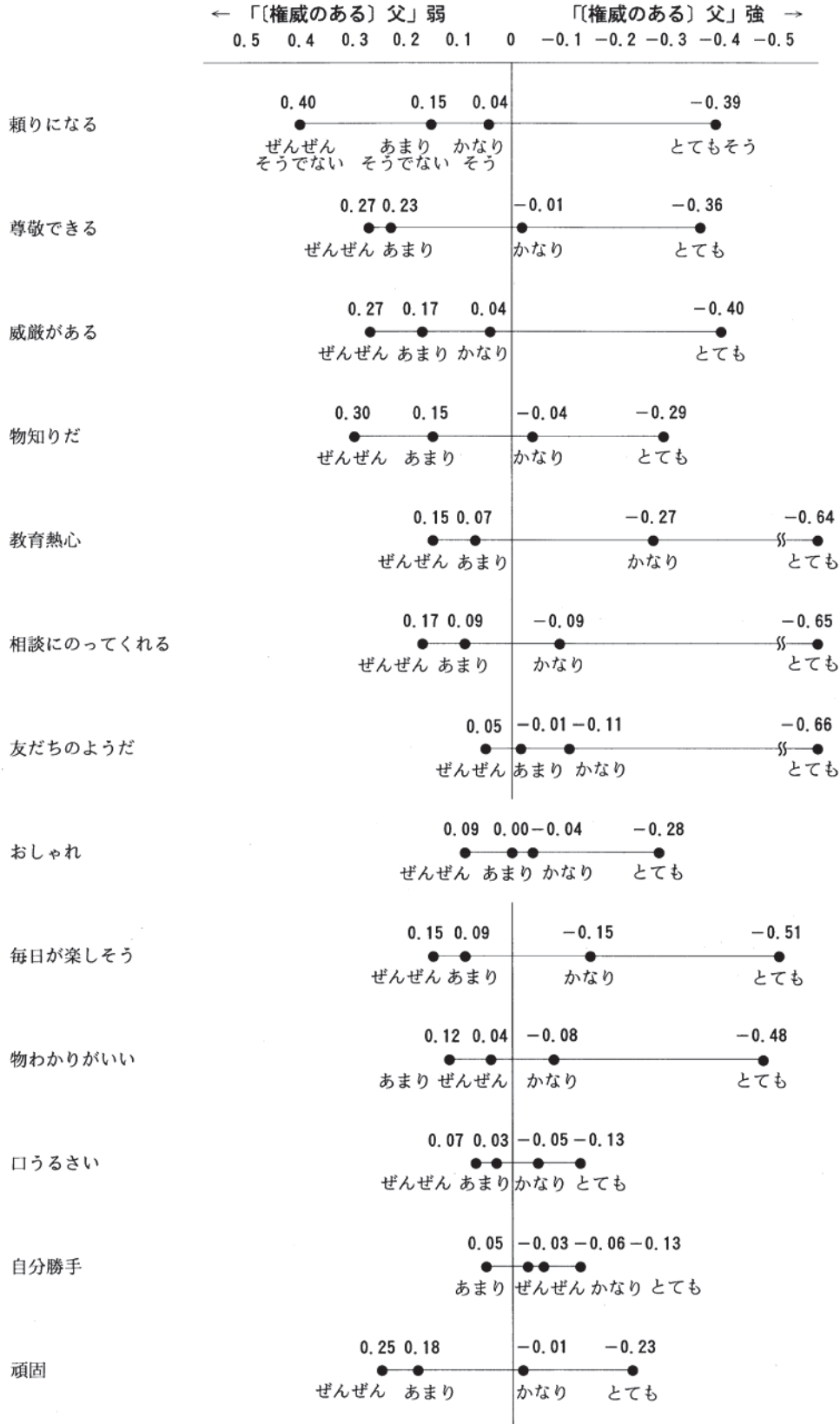
にみられた年齢の傾向性も考慮に入れると、この「〔権威のある〕父」の父親は「頑固型」と「友だち型」にはさまれた過渡期的な姿といえるのかもしれない。

図2-11は「友だち型」についてである。「友だち型」の父親は「友だちのようだ」「おしゃれ」「毎日が楽しそう」「物わかりがいい」といった自分の父親イメージを析出した項目に関し高い相関がみられた。また「〔権威のある〕父」の父親同様に、「物知りだ」「相談にのってくれる」については、「〔権威のある〕父」の父親ほどではないにせよ、相関がみられる。

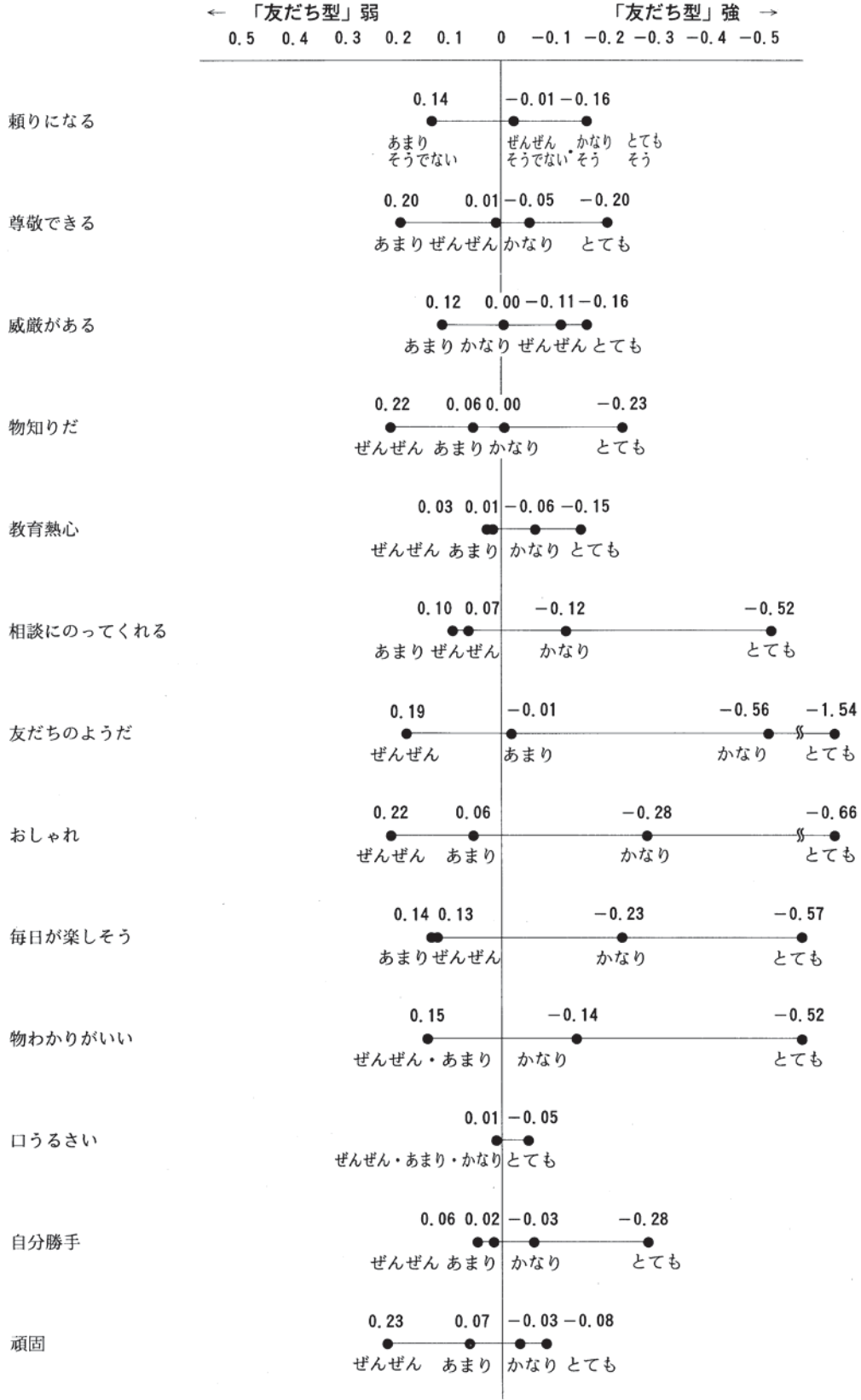
図2-12は「〔身勝手な〕父」についてであるが、「〔権威のある〕父」「友だち型」の項目いずれについても、あまり高い相関はみられない。「口うるさい」「自分勝手」「頑固」といった自分のイメージと同じイメージに対して、自分の父親がそうであったとする割合が高くなっている。

このようにしてみると、父親としての自分の評価と自分の父親に対するイメージとでは高い相関がみられる。したがって、現実には自分の父親がどうであったかは別として、自分の目に映っていた父親の姿を自らもモデルとしているとみなすことができるようである。

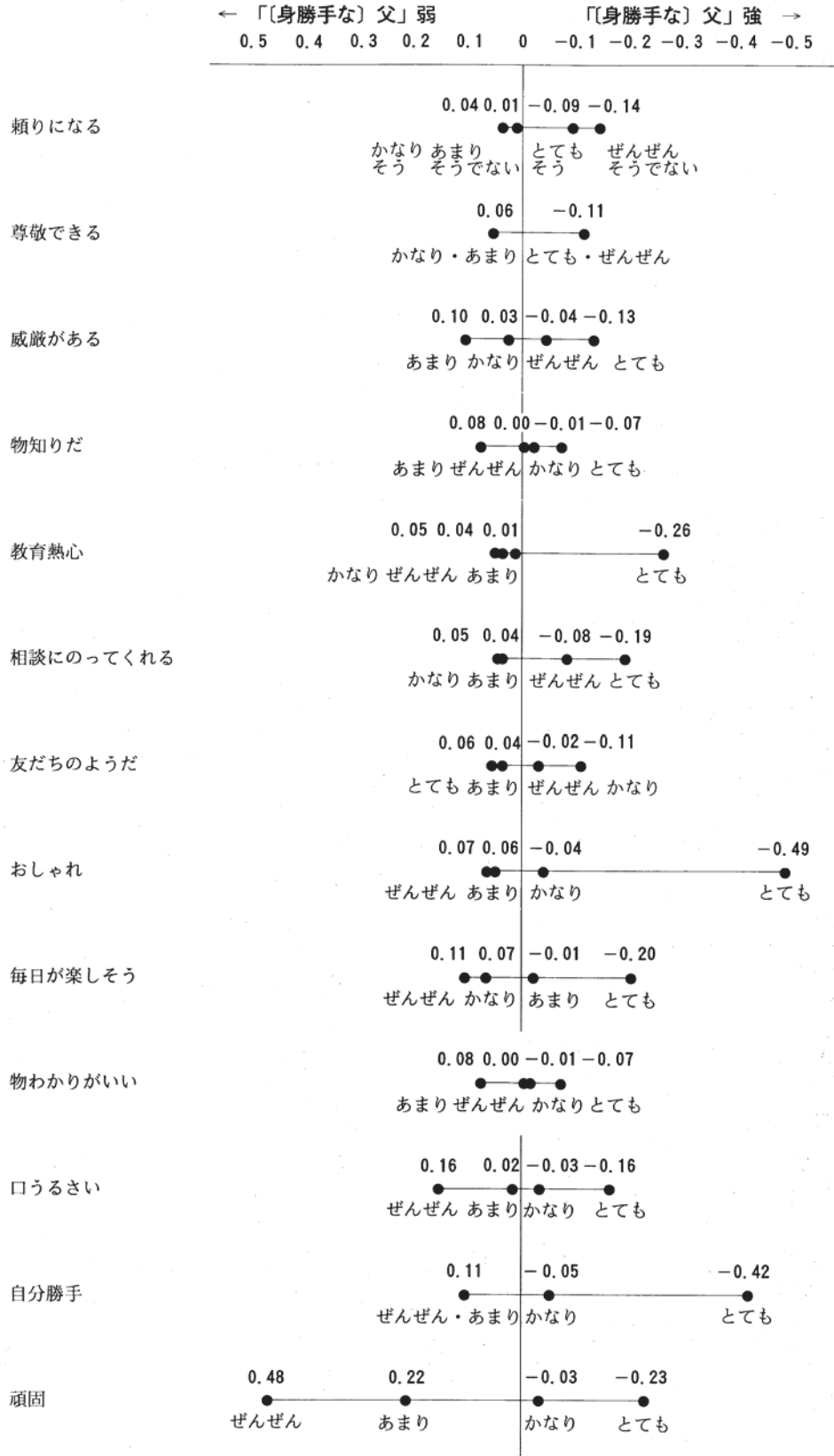
(図2-10) 「[権威のある] 父」因子と
自分が中学生の頃抱いていた自分の父親についてのイメージ



(図 2-11) 「友だち型」因子と
自分が中学生の頃抱いていた自分の父親についてのイメージ



(図2-12) 「[身勝手な]父」因子と
自分が中学生の頃抱いていた自分の父親についてのイメージ



第IV章 父親の教育観



1. 父親の教育観

では、このような父親はどのような教育観を抱いているのだろうか。表2-6から、父親は、子どものしつけは母親の仕事だとは必ずしも思っておらず、父親の子どもに与える影響は大きく、自分の背を見て子どもは育つと父親の教育効果を肯定的に評価しているようである。また教育については、子どものしつけは家庭の仕事であり、地域の教育力は低下していると考えているようである。

これら父親の進学希望としては、「ふつうくらいの大学」が44.5%と約半数を占め、これに「入るのがむずかしい大学」および「大学院」を合わせると51.6%と過半数を占めることになり、多くの父親が子どもに大学まで

の教育をつけさせたいと願っていることがわかる(表2-7)。

また自分の子どもに対する心配として、「とても+わりと心配だ」とする割合を図2-13に示している。この年代の子どもについての心配ごとの可能性の1つに非行があげられるが、子どもが「非行にはしるのではないか」と心配する父親は13.7%と、その割合は低い。しかし「希望の高校に行けないのではないか」という、かなり現実味をおびた、しかも多くの場合避けて通れない高校入試については45.7%と、2人に1人の父親が心配している。また非行と同様に、おそらく実感がわかないのであろう、「結婚相手が見つから

ないのではないか」(14.9%)、または「幸せな家庭が築けないのではないか」(13.6%)といった将来の出来事に関しては、ほとんど心配をしていないということが目につく。こ

のようにしてみると、父親は母親に比べあまり子どもと近い距離にいないせいか、具体的でより現実的な事柄でないとあまり心配しない傾向をもっているようである。

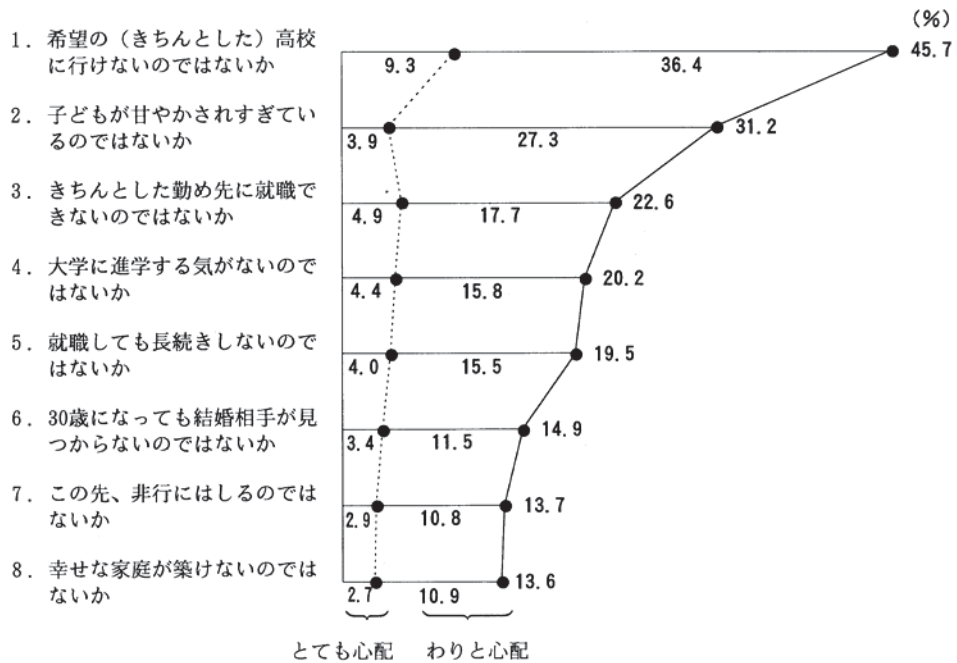
(表2-6) 教育やしつけに対する考え

	(%)			
	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1. 子どものしつけは学校でなく、家庭の仕事である	40.9	50.7	7.7	0.7
2. 父親が子どもに与える影響は大きいと思う	35.0	53.0	11.1	0.9
3. 今の子どもは甘やかされすぎている	28.9	59.5	10.6	1.0
4. 子どもは父の背を見て育つと思う	28.6	50.1	19.7	1.6
5. 非行にはしるのは、親の愛情が欠けているためである	25.6	41.8	27.8	4.8
6. 非行にはしるのは、父親の力が弱いためである	14.1	33.4	44.2	8.3
7. 地域の教育力は低下していると思う	12.8	34.3	48.3	4.6
8. 高校受験のために、塾に通わせる必要はない	10.8	31.9	48.0	9.3
9. 子どものしつけは、母親の仕事である	5.8	29.9	53.9	10.4

(表 2 - 7) 父親の進学期待

	(%)
中学まで	0.3
高校まで	20.9
短大・専門学校まで	23.7
ふつうくらいの大学	44.5
入るのがむずかしい大学	5.9
大学院まで	1.2
その他	3.5

(図 2 - 13) 子どもについての心配



2. 子どもに対する望み

では最後に、父親として自分の子どもに対する望みをみることで、この部を終わりにすることにしよう。

表2-8はアンケートの最後に自分の子どもに対してどのような望みをもっているかを自由に記述してもらったものの一部であり、それと同時に、その父親が自分の子どもに対し学力・性格・しつけについて評価した数字を載せたものである。まず女の子についてであるが、中1・2の女の子に対して多かった望みは、健康で女の子らしく、他人に迷惑をかけることなど、特に女らしさに即した望みを抱いている父親が多くみられた。この段階までは、あまり将来社会人としてつながるような具体的な望みを抱いてはいないようである。しかし中3の女の子をもつ父親の場合、「女性として」と明示した望みはなくなり、職業に結びつくものでなくとも、将来を考慮に入れた望みを抱き始めるようである。

男の子の場合、女の子に比べてこの欄に記入をした父親が少ないため、回答にあまり大きな差はみられなかったが、女の子同様、中1の男の子に対して、男性らしさを求める望

みが多くみられる。また、勉強に言及した望みをもつことが意外と少ないという反面、男の子に対する望みとして最も多くみられたのが、他人に迷惑をかけないことであった。

このようにしてみると、現代の父親は子どもに対して決して学力だけを望んでいるわけではない。逆に、「学力だけではないので、人間性を……」というように、現代のマスメディアを中心とした学力重視主義に対し異議をとなえているような意見も多くみられた。しかし父親の子どもへの望みとしては、男女を問わず、子どもに対して大きな夢を抱いていないようである。現代の子どもは大きな夢を抱かなくなってきたといわれるが、父親のこの望みの低さにもその一因があるのかもしれない。また、アンケートなど意識調査で男女の差よりも個人差を重視した教育をすべきだなど、性差を縮小するような意見の割合は年々高くなってきているといわれるが、実際自分の子どもについての望みを記述した場合、やはり性別に基づいた役割に沿った成長を子どもに望んでいる様子がうかがわれた。

(表2-8) 父親として子どもに望むこと

◎中1の女の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
2	1	2	のびのびと国際的な仕事(通訳とか文化交流etc)をしてほしい。
2	2	2	子どもが女であるため、娘自身に方針を決めさせ、平凡な親となるように……。
2	2	2	他人に迷惑をかけない常識のある人になってほしい。
2	3	2	年齢に応じて、生きる目的を考えられるような子であってほしい。周囲に気配りができ、なおかつ、自主性をもてるようになってほしい。
3	1	2	素晴らしいお嫁さんになること。
3	1	2	子どもは2人とも女の子なので、できるだけ女の子らしく幸せな結婚をしてほしいと思いますが、自分の夢はかなえてほしい。教育も大切ですが、やはり一番大切なことは優しさや思いやり、協調性だと思います。
3	1	2	他人に迷惑をかけず、自分で生活設計をもってやってほしい。また、家族および、友人を大切にできる人になってほしいと思っている。
3	2	2	健康でふつうの女の子でよい。高望みは致しません。
3	3	3	自分の意志をはっきり他人に言える人間になってほしい。
4	1	2	社会常識を身につけ、他人に迷惑をかけず、健康で、男子は自立し、女子は家庭に入り、円満な家庭を築くこと。
	2	2	女の子ですので、女性らしくと一番むずかしいことを思っている。できれば仕事をもつことを望む。そのことを理解できる男性と知り合ってほしいこと。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である

◎中2の女の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
1	2	2	おとなになって世間の男性からかわいがられる常識と礼儀を身につけた女になってほしい。そしていかなる苦難にも負けない忍耐強い女になってほしい。それ以上のことは何も望まない。それが彼女が幸福になる絶対の条件だと思う。
2	1	1	立派な社会人(知識的にも経済的にも)として、人間としてのやさしさをもって、社会に貢献できるようにしてほしい。
2	1	2	……自分のやったことに責任がとれる人間になってほしい。「女だから」という甘えた考え方はもたない生き方ができる女性になってほしい。親は親・自分は自分という自立心をもてたらと思います。
2	2	2	女性ではあるが、人よりほこれるもの(仕事、趣味なんでもかまわない)を1つでいいから身につけてほしい。自分に対して自信のもてる人生を歩いてほしい。
2	2	3	頭が悪くても身体が丈夫であればいいと思う。教育だけがその子どもの一生だとは思わない。
3	2	2	健康に気をつけて、素直でいつまでもかわいい女性でいてほしい。
3	2	2	勉強の能力が劣っていても、自分の資質と才幹に見合った何かの分野で、誇りある道を選ぶことができればと思います。
3	3	2	立派な人より平凡でよい。人並みな生活ができればそれでよいと思う。人にやさしく、人のことを思える人間になってほしい。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である

◎中3の女の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
1	1	2	親・第三者の意見は尊重してほしいが、まず自分の意志を最優先し、他の意見は助言程度に吸収しながら、敗者の悔しさを、辛さをわが身に置き換え得るやさしさを身につけてほしい。成功、失敗の繰り返しの中で、毎日々、精一杯輝いて生きてほしい。
1	2	2	立派な人間となり、意義ある人生を送ってほしい、と思います。
2	1	1	自分の信念に基づいて後悔することのないように人生を送ってほしい。
2	1	2	自分の言動態度に責任をもち、自分自身で納得のいく人生を送ってほしい。
2	1	2	正義感の強い、誰とでも協調して生活のできるよう成長してほしい。
2	2	2	社会に貢献できる人間になってもらいたい。そのためにも大学で専門分野を学習してほしい。
2	2	2	幸福な家庭を作ってほしい。皆に好かれる人になってほしい。
2	2	2	学力も大事だとは思いますが、もっといろいろなことに積極的にぶつかってほしいと思います。
2	2	3	人に負けないようがんばってほしい。(自分自身があまりにゆずりすぎたために)
3	2	2	健康で人に迷惑をかけず生きていけば何も望むことはない。
3	2	2	社会に責任がとれる子どもであってほしい。これからの社会は大変だと思う。しっかりと希望をもってほしい。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である

◎中1の男の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
1	1	1	何事も人並みでよいと思わず努力し、人並みを楽しむことも忘れないおとなになってほしい。
2	1	1	どんなことにもくじけない強い人間になってほしい。自営業ですので後継者として社員の先頭に立って指揮できる人間になることを望みます。
2	2	2	男としては、人間として教養と人に対するやさしさと思いやり、自分には厳しくあってほしいと願っています。
2	2	2	健康な身体と心を養って、ふつうの人間でもよいから、人に後ろ指をさされることのないおとなになってほしい。
2	2	2	遊ぶことも、学ぶことも、腹いっぱいできる子どもになってほしい。そのためには、第一に健康な体を作ってほしい。
2	2	2	病気もせず毎日元気でいられること。たくさんの人に好かれる人になってくれる。そのような人間になってもらいたい。
2	2	2	まわりの環境に振りまわされることなく、自分の夢を大切に逞しく男として、生きてほしい。そして男でも、いつも他人への思いやりと優しさを忘れないでほしい。
2	2	2	何事もなく育ってくればよい。それが何よりの望みです。
2	2	3	……女に絶対負けてはならない。大学は卒業してほしい。他人を思いやる心をもつようにしてほしい。
3	2	2	いろいろな物事の壁にぶつかっても、常に前向きな姿勢をもち続け、乗り越えていける力を養ってほしい。男としての強さと優しさをもってほしい。
3	2	2	夢は大きくもって、自分の好きな道を歩んでほしい。
3	2	3	ふつうの高校に入学でき、一般的な社会人として世の中で生きていけるような人間性を最低でも身につけてほしい。
3	3	3	男としての責任をしっかりと身・心につけた子どもに育ててほしい。
3	3	3	自分の意見もち、人に左右されずにいてほしい。自分で何でも経験してほしい。これと思ったら結果が出るまでやりぬいてほしい。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である

◎中2の男の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
2	2	2	勉強および運動も共に行い他人に対しやさしく対応できるような人になること。
2	2	2	社会常識をもち、善悪正邪の判断を確実に行える人間となり、できればリーダーシップを発揮するタイプの人になってもらいたい。
2	2	3	目標に向かって努力し、素直で協調性があり明朗で人間性豊かに育っていけばと思っております。
2	3	3	人に迷惑をかけない人生を送ってほしいと思います。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である

◎中3の男の子をもつ父親

学力	性格	しつけ	
2	1	2	サラリーマンでふつうに家庭をもって、妻や子どもを大事にする父親になってほしいと思います。
2	2	2	勉強も必要だと思うが性格がよく誰にでも好かれる男になってほしい。また仕事や他の面でもうまくこなせる（世渡りのうまい）ようになればよいと思う。
2	2	2	あくまで可能なかぎり最高を目指してほしい。ただし、自分の正義・正直な範囲において……。
2	2	2	何事にも素直で、それでいてポリシーをきっちりもった人間になってもらいたい。
2	2	3	平和で明るい家庭を築き、まわりから信頼される人であるように。
4	3	3	人のために生きられるような、そんな大きな心をもった人になってもらいたい。
4	3	3	社会に出たら人に好かれる人間になってほしい。会社に貢献してほしい。

1. とても満足 2. まあまあである 3. あまり満足していない 4. かなり不満である